

保健体育科 1年

体育分野 ダンス～CB を用いた評価の在り方について～

担当 羽田野 直樹

【活動の目標】

動画をもとに自分の動きを見直すとともに、改善した自分たちのダンスを形として残す。

【 問 い 】

- ・ 組み合わせたダンスを実際に踊ってみよう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・ ダンスを見返し、動きを確認することでより改善したダンスを練習し、実践しよう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
<p>A 教員による一斉の作品収集</p> <p>自分たちのダンスを改善したうえで、もっともよくできたダンスを提出することによって、自分たちのダンスを記録として残すとともに、クラスメイトに共有することができる。</p>	<p>全体の前や教員の前で、1グループずつ踊って披露する。</p>
<p>C3 思考を深める活動</p> <p>自分たちのダンスを撮影して見返すことによって、イメージしていた表現ができていないか、肘を伸ばすなどの細部の動きがどのように見えているかを確認し、改善点を見付ける。</p>	<p>他のグループなどに見てもらい、言葉で伝えてもらったり、自分たちのグループで交代しながら動きを見合ったりして、改善点を探す。</p>

【資料】①ダンスを実際に撮影している場面



評価用の動画を撮影する際には、一斉に音楽を流し、合わせてダンスを躍らせ撮影させることで、全グループが短時間に踊り、撮影することができた。

【ICT 機器を活用する良さ】

- 自分たちのダンスを見返すことができるので、実際に観戦者からどのように見えているのかをイメージしやすい。
 - 撮影した動画を見ることで、改善点が把握しやすい。
 - 動画をアップして google classroom の課題として提出させることで、評価にも活用できる。
- 【改善すべき点と原因および改善案】**
- ・撮影範囲をこえてダンスを踊ることにより、映像に残せない部分ができてしまう。
⇒事前の十分な調整が必要。
 - ・ダンスの隊列によっては、どうしても死角がうまれてしまう。
⇒評価等で支障が出る場合もあるので、評価で使用する場合には特に、一定の隊列で踊らせる必要がある。

